



自立を支える税金

大田区立大森第六中学校 三年 後藤 結衣

五月に救急搬送された祖母がもうすぐ退院の日を迎える。祖母が暮らしやすくなるように介護用品会社の方と祖母の生活導線を考え、手すりの増設場所等を決める打ち合わせがあった。祖母のためにポール型の手すりを新たに四本借りることになった。介護用品のカタログを見て、料金は介護保険で補助されているということを知った。デイサービスもヘルパーさんの利用費も介護保険で補助される。介護保険制度は基本六十五歳以上の高齢者であれば全国どこでも受けられ、どの程度の介護が必要かは市区町村が認定する。そしてこの制度の半分は税金で補助されている。祖母は以前まで「要支援2」だったが今回の入院で「要介護2」まで上がってしまった。なるべく迷惑をかけないで、出来ることは自分でやってみたいという祖母の気持ちを踏まえ自宅での生活を続けることになった。「いろいろな選択をする時、経済的理由を気にせず決められた介護保険という制度は本当にありがたい」と父が話していた。改めて厚生労働省のホームページでこの制度の目的を見てみると、「高齢者が尊厳を保ちながら暮らし続けることができる制度」と記載されていた。尊厳を持ち、祖母が目指している自立した暮らしが出来るこ

とを時々様子を見に行きながら応援したい。

昨年職場体験で保育園に訪問した。私は、小さい子供と接した経験が少なかったのもとても楽しみにしていた。子供達が友達との遊びを通して笑顔でルールを学んでいる姿を見ると私も楽しくなった。保育士さんから「保育士とは安全に配慮しながら子供の自主性を重んじ、自立の手助けをする仕事」という話があった。私が将来親になったときにこのように安心して子供を預けられる施設があることはとても心強い。政府は現在認められていない「三歳から五歳児対象の小規模認可保育所」を多様なニーズに対応するために検討を始めたという記事を新聞で読んだ。今以上に子育て環境が良くなることは更なる少子化対策になるだろう。

高齢者の自立にも、保育園や学校教育を通し子供が成長して自立するためにたくさんの税金が使われていることに気付いた。両者が安心して暮らせる国は素晴らしいと思う。

そのためにその人達を支える人の負担が軽減される仕組みはもっと必要なのだろう。税金は弱い立場の人、困っている人に手を差し伸べる仕組みだと思つ。孤立しないよう皆で支えあうことの大切さを改めて実感した。私は何の意識も無く消費税を払っているだけだが税金の仕組みに少しでも還元できているならうれしい。私達が住んでいる日本が今以上に高齢者にも子供たちにも安心して暮らすことが出来る国になるために、将来税金を払うことで貢献したいと思つ。